

Pharma

みんなにやさしいバイオの夢



Report

第13期 中間報告書

平成21年8月1日から平成22年1月31日まで

Foods

株式会社ファーマフーズ

証券コード：2929

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配、ご支援を賜り、心から御礼申し上げます。

ここに当社第13期第2四半期累計期間（平成21年8月1日から平成22年1月31日まで）の事業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成22年4月

代表取締役社長 金武祚



▶ 事業の概況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、緊急財政政策の効果等により、一部において景気回復傾向が見受けられるものの、雇用情勢の悪化や個人消費の低迷が続くなど、長期的なデフレ傾向の様相を呈してまいりました。

当社をとりまくバイオ・機能性食品の分野におきましても、消費者の節約志向・低価格志向がより鮮明となり、引き続き厳しい経営環境となりました。

このような厳しい経営環境下において、当社は、「医薬と食の融合」というコンセプトに基づき、事業部門を、機能性素材部門、機能性製品部門、バイオメディカル部門、及びLSI (Life Science Information) 部門と定め、開発面では、医薬品事業等への展開を見据えた次世代製品の研究開発を実施してまいりました。また、営業面では、海外において、現在の主力製品である機能性食品素材を事業展開するための活動を、国内においては、消費者向け最終製品の販売の本格稼働に向け、OEM事業を立ち上げるための活動を実施してまいりました。

以上により、売上面では、葉酸たまご事業において全般的に好調であったこと、また、LSI事業において、受託試験ビジネスを積極的に展開した結果、当第2四半期累計期間（平成21年8月1日から平成22年1月31日まで）において受注が増加したこと等から順調に推移し、売上高は434百万円（前年同四半期388百万円、前年同四半期比11.9%増）と大幅に伸ばいたしました。また、売上総利益についても、利益率の改善を目標とした施策の効果により205百万円（前年同四半期136百万円、前年同四半期比50.6%増）となりました。一方、経費面では、販売費及び一般管理費については、251百万円（前年同四半期258百万円、前年同四半期比2.7%減）となり、営業損失45百万円（前年同四半期121百万円）と前年同四半期に比べ大きく改善いたしました。さらに、歯周病バイオフィルム抗体の研究開発にかかる補助金収入等の営業外損益を計上しました結果、経常損失14百万円（前年同四半期110百万円）、四半期純損失16百万円（前年同四半期115百万円）となり、通期での黒字化達成に向け順調に改善しております。

▶ 通期の見通し

今後の経済情勢につきましては、昨今の先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

このような状況におきまして、当社では、今後も継続すると思われる厳しい経営環境に耐えうる事業基盤を再構築すべく、様々な取り組みを実施しております。

- 機能性素材部門……………引き続き、積極的な海外営業展開を進めております。特に、成長著しい中国市場におきましては、同市場で初めて当社製品ポーネベップが採用されました粉ミルクが垂華乳業社から発売されるなど、その成果が出始めており、今後ますますの進展が期待されます。
- 機能性製品部門……………最終消費者をターゲットとしたOEM事業の本格稼働に向けた作業を進めており、今春には同事業の商品第1号となる「スコアエイド プレミアム（顆粒タイプ）」が発売される予定となっております。
- LSI部門……………受託試験ビジネスを積極的に展開した結果、当第2四半期累計期間において受注が増加し、大幅な伸長となりました。（前年同四半期比：1,310.9%の増加）
- バイオメディカル部門…長期的な展望のもと、検査薬・医療食・メディカルデバイス製品等の次世代製品の開発を進めており、当初の計画通り、順調に推移しております。

以上のことから、売上高・各利益ともに、通期の業績予想は達成できるものと見込んでおり、売上高は944百万円、営業利益は13百万円、経常利益は92百万円、当期純利益は89百万円と予想しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

TOPICS 「抗インフルエンザ鶏卵抗体のカラム大量精製技術を確立いたしました」

当社とクロマト業界大手の株式会社ワイエムシー(京都市:会長兼社長 山村隆治)は、カラムクロマト精製技術を用いて、純度の高い抗インフルエンザ鶏卵抗体を、安価かつ工業スケールで大量に生産する技術を確立いたしました。

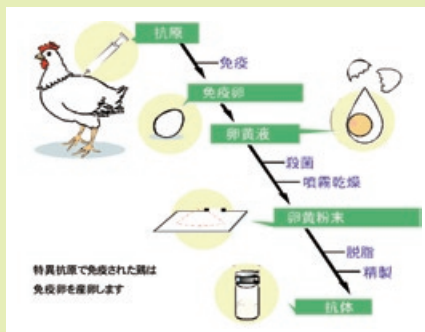
抗インフルエンザ鶏卵抗体は、当社の鶏卵抗体生産技術(注)により開発されたもので、インフルエンザウィルスを1分以内に不活化できる機能性の素材です。

鶏卵抗体は卵黄から得られる抗体で、当社では鶏卵抗体を大量生産することに成功し、様々な疾病予防の機能性素材として供給していますが、幅広い用途に応用するためには、新たな技術により抗体の純度を高めるための精製方法が強く求められていました。

今回の技術的成果によって、従来になかった幅広い用途に応用することが可能となります。現在は製品化作業を進めている段階であり、今後、早期での製品化及び採用商品の上市を目指してまいります。

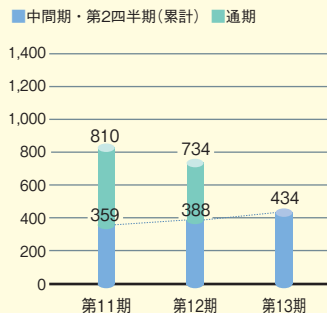
(注)鶏卵抗体生産技術:鶏に抗原(細菌、毒素、ウイルス)を注射すると、これらの抗原を排除しようとする物質(抗体)を体内につくりだす。鶏をはじめとする鳥類は、子孫を守るため、体内でつくられた抗体を、卵黄中に移行・蓄積させることが知られている。

【鶏卵抗体の生産工程】



売上高

(単位:百万円)

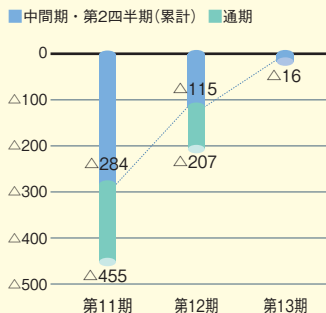


POINT ① 売上高

葉酸たまご事業・LSI事業において全般的に好調であったこと等から、前年同四半期比で11.9%の増加と大幅に伸ばいたしました。また、海外売上高についても、前年同四半期比で65.1%の増収となりました。(下記参照)

当期純利益

(単位:百万円)

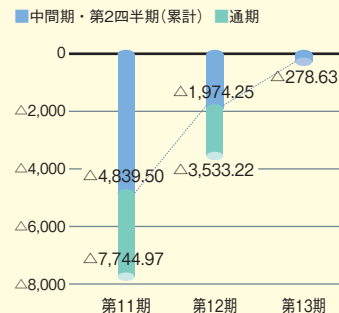


POINT ② 当期純利益

増収と利益率の改善による売上総利益の増加、経営合理化施策による経費削減効果で、前年同四半期に比べ大きく改善いたしました。また、第2四半期会計期間(11月~1月)においては、黒字化を達成しているなど、損益改善のための取り組みは順調に進捗しており、通期においては純利益を見込んでおります。

1株当たり当期純利益

(単位:円)



POINT ③ 1株当たり当期純利益

残念ながら、当第2四半期累計期間では1株当たり純損失となっておりますが、通期では純利益を確保できる見込みであります。当社では、今期(第13期)において黒字化への転換を達成し、第15期までに累積損失の解消を目指してまいります。

海外営業展開について

ブルーオーシャン・プロジェクト(注)

当社では、ブルーオーシャン・プロジェクトの一環として、機能性素材を食品素材用途として広く普及することを目的に、世界規模での新規市場の開拓を図ってまいりました。

前事業年度までにおいては、輸出取引の約80%を韓国が占めている状況でしたが、当事業年度においては、台湾、アメリカ、メキシコ、そして中国向けの輸出が増加し、各国多様化へと移行する第一段階を達成した状況にあると考えております。

(注) 血みどろの戦いが繰り広げられる既存の市場を「レッドオーシャン(赤い海)」と言うならば、「ブルーオーシャン(青い海)」は競争のない市場空間を生み出して競争を無意味なものにする未開拓の市場をさします。

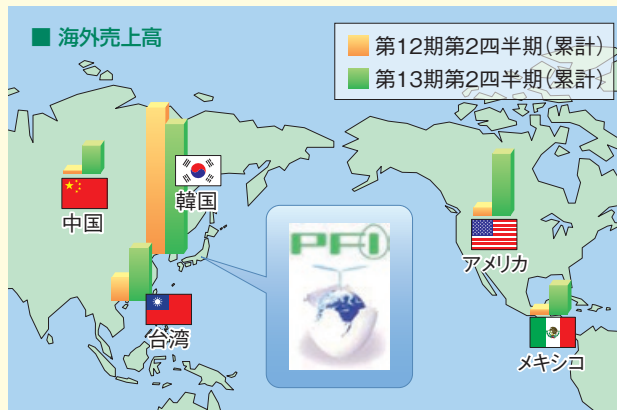
中国:「種まき」から「刈り取り」へ

中でも、成長著しい中国市場は、現在、最も注力すべき市場であると考えております。

当社では、約3年前から中国市場へ進出すべく、当社の機能性素材のうち、ファーマギャバとボンペップの2つの素材について、食品素材として販売するため、中国の食品認可制度である「新資源食品」の認可取得に注力してまいりました。そして、昨年、同2品目が「新資源食品」の認可を取得した事を機に、北京市に駐在員事務所を設置し、本格的に進出いたしました。

現在は、投資段階を経て、中国市場で長期間において収益を確保するための営業展開を進めております。既に、当第2四半期累計期間において、ボンペップが初めて採用されました粉ミルクが亜華乳業社から発売されるなど、計画は順調に推移しており、「種まき」から「刈り取り」の時期へさしかかったと考えております。

今後も引き続き、中国市場を中心に、北米・インド・中東・メキシコ・オーストラリア等において更なる拡販を図り、真のグローバル企業へと飛躍してまいります。



四半期貸借対照表

(単位：千円)

科 目	当第2四半期 (平成22年1月31日現在)	前第2四半期 (平成21年1月31日現在)	前期 (平成21年7月31日現在)
(資産の部)			
流動資産	1,139,757	1,360,870	1,459,678
現金及び預金	420,336	114,956	577,687
受取手形及び売掛金	187,856	167,432	125,525
有価証券	399,255	896,669	598,073
たな卸資産	90,316	106,860	111,108
その他	43,918	84,039	48,554
貸倒引当金	△ 1,924	△ 9,089	△ 1,271
固定資産	1,278,287	1,166,655	1,190,649
有形固定資産	803,169	844,681	823,304
建物	344,761	363,035	353,372
工具、器具及び備品	45,951	62,612	52,909
土地	387,863	387,863	387,863
その他	24,592	31,169	29,157
無形固定資産	1,285	708	1,216
特許権	200	240	220
その他	1,084	467	995
投資その他の資産	473,833	320,427	366,129
投資有価証券	388,969	276,150	301,500
関係会社株式	4,900	4,900	4,900
その他	79,963	39,377	59,728
資産合計	2,418,045	2,526,687	2,650,328
(負債の部)			
流動負債	139,720	124,502	334,443
支払手形及び買掛金	41,170	40,433	39,021
未払金	10,610	12,956	212,499
未払法人税等	4,077	4,145	5,095
その他	83,863	66,967	77,826
固定負債	8,228	44,070	24,008
長期借入金	7,980	39,540	23,760
リース債務	248	4,530	248
負債合計	147,949	168,572	358,452
(純資産の部)			
株主資本	2,331,852	2,439,811	2,348,222
資本金	1,563,299	1,563,299	1,563,299
資本剰余金	1,415,003	1,415,003	1,415,003
利益剰余金	△ 646,450	△ 538,491	△ 630,080
評価・換算差額等	△ 61,755	△ 81,696	△ 56,346
純資産合計	2,270,096	2,358,114	2,291,876
負債・純資産合計	2,418,045	2,526,687	2,650,328

四半期損益計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期累計期間 (平成21年8月1日から 平成22年1月31日まで)	前第2四半期累計期間 (平成20年8月1日から 平成21年1月31日まで)	前期 (平成20年8月1日から 平成21年7月31日まで)
売上高	434,594	388,410	734,098
売上原価	228,784	251,717	488,904
売上総利益	205,810	136,692	245,194
販売費及び一般管理費	251,424	258,498	509,364
営業損失	45,614	121,805	264,169
営業外収益	31,593	23,596	70,326
営業外費用	732	11,823	5,831
経常損失	14,753	110,031	199,675
特別利益	465	4	4
特別損失	-	4,020	4,468
税引前四半期(当期)純損失	14,288	114,047	204,140
法人税、住民税及び事業税	2,080	1,939	3,435
四半期(当期)純損失	16,369	115,987	207,576

四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

科 目	当第2四半期累計期間 (平成21年8月1日から 平成22年1月31日まで)	前第2四半期累計期間 (平成20年8月1日から 平成21年1月31日まで)	前期 (平成20年8月1日から 平成21年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,846	△ 106,282	△ 129,344
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 106,932	△ 503,779	△ 398,777
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 15,780	△ 6,719	△ 25,291
現金及び現金同等物に係る換算差額	207	△ 4,536	△ 145
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 157,350	△ 621,318	△ 553,559
現金及び現金同等物の期首残高	677,687	1,231,246	1,231,246
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	※520,336	609,928	677,687

※資金に含まれていない有価証券として確定利回り債券390,630千円(うち、期間1年未満の債券299,255千円)を有しております。

■ 本報告書は四半期決算短信の数値、文章を基に作成しております。その後公表される可能性がある訂正情報、業績予想の修正情報や決算の詳細につきましては金融庁EDINETや当社ホームページの掲載資料にてご確認ください。

機能性素材部門

鶏卵・野菜・緑茶・豆類・牛乳・乳酸菌などの身近な食品素材から生理活性物質を探求し、科学的考証に基づいた素材開発を行っております。

鶏卵抗体 (IgY)

鶏卵抗体技術は鳥類固有の免疫システムを利用したバイオテクノロジーであり、機能性食品や化粧品等のほか、医薬品・検査薬・診断薬等、様々な可能性が期待できる製品です。

ポーンベップ

卵の中でヒナの骨が形成されることに着目し、骨の成長に関わる素材として開発しました。現在は、サプリメント用途や乳酸菌飲料等に採用されております。

葉酸たまご

当社のバイオ技術により葉酸が通常卵の約3倍含有することに成功した機能性卵です。現在では殻付き卵（生たまご）、温泉たまごのほか、パン・菓子用途等として販売いたしております。

ギャバ

動植物や微生物で生産される非タンパク系のアミノ酸の一つで、脳内で抑制系の神経伝達物質として働くといわれています。

カテキン

苦味の原因成分の大部分を抽出・精製過程で取り除くことにより、高濃度でもおいしく飲むことができ、飲料用に最適な高純度カテキンとして販売いたしております。

機能性製品部門

機能性素材の研究・開発を、主力業務から派生した部門として、消費者向けの最終製品の企画・製品化にも取り組んでおります。当事業は、通信販売会社用のダイエット食品やサプリメントのほか、当社ブランドによるサプリメントや飲料などの企画・販売をしております。

バイオメディカル部門

これまで得られた基本技術、中でも鶏卵抗体技術を軸として、国内・海外の大学薬学部及び各製薬メーカー、診断薬メーカーなどと基礎研究を中心に共同研究を実施しております。また、平成19年4月に株式会社広島バイオメディカルを設立し、当社の次世代製品（検査薬・医療食・メディカルデバイス製品等）の開発を進めております。将来の当社事業の中核とするべく、開発、技術、マーケット展開等の多角的な側面からの検討を行いながら、食品・製薬メーカーとの間で共同研究等を実施し、事業化を進めております。

LSI (Life Science Information) 部門

機能性素材全般に関わる研究開発から得られた技術等を基に、食品メーカー・化粧品メーカー等より各種素材・製品等に関して受託業務を実施しております。機能性に関するデータ取得やその分析、各種素材の成分分析、精製品の作成依頼等、食品を中心とした各メーカーの研究開発に対するサポートを実施しております。

OEM事業、始動

今期の事業方針の一つに、最終消費者をターゲットとしたOEM事業の本格展開を掲げてまいりましたが、この度、同事業において、初めての商品化となる「スコアエイド プレミアム（顆粒タイプ）」が発売されることとなりました。

同商品は、当社の機能性素材であるギャバが使用されており、ゴルファー向けに、ゴルフダイジェストオンラインや各地のゴルフショップ等で、販売される予定となっております。



スコアエイド プレミアム
(顆粒タイプ)

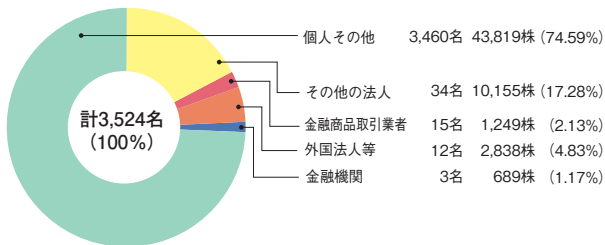
株式情報

(平成22年1月31日現在)

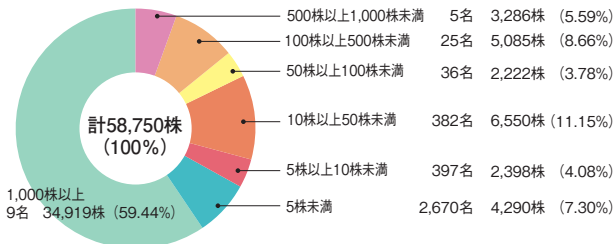
- 発行可能株式総数 172,000株
- 発行済株式の総数 58,750株
- 株主数 3,524名
- 大株主（上位10名）

株主名	持株数	出資比率
金武祚	17,580株	29.92%
バイオフロンティア・グローバル投資事業組合	5,340株	9.08%
株式会社ワイエムシィ	3,844株	6.54%
シービーエイチケイコリアセキュリティーズポジットリー	2,305株	3.92%
江崎グリコ株式会社	1,830株	3.11%
金湧淑	1,020株	1.73%
株式会社ニッセンホールディングス	1,000株	1.70%
三菱商事株式会社	1,000株	1.70%
ロート製薬株式会社	1,000株	1.70%
エース証券株式会社	800株	1.36%

● 所有者別株式分布状況



● 所有株式数別株式分布状況



会社概要

- 社名 株式会社ファーマフーズ
- 本社事務所 〒615-8245 京都市西京区御陵大原1番地49
- 電話 075-394-8600
- 設立 平成9年9月12日
- 資本金 156,329万円 (平成22年1月31日現在)
- 従業員数 31名 (平成22年1月31日現在)
- 主要な事業内容 機能性食品素材の開発・販売
- 主要な事業所 東京営業所・北京駐在員事務所

役員

(平成22年1月31日現在)

代表取締役社長	金武祚
常務取締役開発部部长	尹崇夔
取締役総務部部长	皿谷和久
取締役営業部部长兼京都営業所所长	益田和二
取締役東京営業所所长	岩田智昭
取締役経営企画部部长	中島央雄
常勤監査役	伊井野貴史
監査役	津田盛也
監査役	太田重夫



本社社屋

株主メモ

事業年度	毎年8月1日から翌年7月31日まで
期末配当金受領株主 確定日	毎年7月31日
中間配当金受領株主 確定日	毎年1月31日
定時株主総会	毎年10月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。

株主向け
アンケート

株主の皆様の声をお聞かせください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>



アクセスコード
2929

いいかぶ

検索

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エー・ツー・メディアの提供する「e-株主サーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エー・ツー・メディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※画面内には統計資料としての使用をさせていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主サーチ事務局」TEL: 03-5777-3900(平日 10:00~17:30)/MAIL: info@e-kabunushi.com

ホームページでも当社のことを詳しくご説明しています。

<http://www.pharmafoods.co.jp>

ファーマフーズ

検索

当社ホームページでは、ニュースリリースを適時掲載しているほか、セグメント別の事業内容など当社事業を詳しく知ることができます。また、IR情報も充実させています。IR情報については、中期経営計画、報告書等もPDF形式でご覧いただけますので、ご活用ください。

Click! バナーをクリック!



トップページ



IR情報のページ